

瀬田川プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

水質科

平成12年8月7日

第19報

植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Microcystis aeruginosa</i> *	1		
(藍) <i>Microcystis wesenbergii</i> *	2		
(藍) <i>Phormidium tenue</i> *	100		
(珪) <i>Cocconeis placentula</i>	100		
(珪) <i>Cymbella ventricosa</i>	200		
(珪) <i>Navicula sp.</i>	200		
(珪) <i>Nitzschia sp.</i>	100		
(渦) <i>Ceratium hirundinella</i>	2		
(褐) <i>Cryptomonas sp.</i>	100		
(褐) <i>Rhodomonas sp.</i>	500		
(緑) <i>Chlamydomonas sp.</i>	100		
(緑) <i>Volvox aureus</i>	600		
(緑) <i>Planktosphaeria sp.</i>	600		
(緑) <i>Pediastrum biwae</i>	640		
(緑) <i>Scenedesmus sp.</i>	400		
(緑) <i>Closterium aciculare var. subpronum</i>	10		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum var. ornatum</i>	2		
(緑) <i>Staurastrum sp.</i>	20		
(藍) 藍藻綱	103	2.8	3.5
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(珪) 珪藻綱	600	16.3	27.6
(渦) 渦鞭毛藻綱	2	0.1	2.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	600	16.3	8.6
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	2372	64.5	58.2
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	3677	総体積	2.95E+06
種類数	18	(μm^3)	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)
ただし*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。

動物プランクトン

第1優占種	個体数 (個体/l)
輪虫類 <i>Pompholyx complanata</i>	120

第2優占種	個体数 (個体/l)
輪虫類 <i>Conochilus unicornis</i>	100

*個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

植物プランクトン第1優占種



Pediastrum biwae
(ビワクンショウモ)
緑藻綱

16, 32, 64細胞からなる群体を形成する。各細胞は1本の角状突起を持ち、突起同士が対をなすのが特徴である。琵琶湖の固有種とされ、ビワクンショウモと呼ばれている。

動物プランクトン第1優占種



Pompholyx complanata
(アワフムシ)
輪虫類

被甲は円形、背腹に扁平、背甲前縁の中央が凸出し、腹甲前縁の中央は凹入している。

コメント:

植物プランクトンはビワクンショウモが最も多かった。毎年、夏季から秋季に琵琶湖および余呉湖で多くみられる。動物プランクトンはアワフムシが最も多かった。本種は、湖沼・池沼のプランクトンとして広く分布する種類である。